片山タイムズ

創刊号

令和四年
五月吉日

「片山タイムズ」発行にあたり

お茶中の皆様普段よりお稽古に勤しんでいただき感謝しております。

この度、社中の様子やわたくしが気付いたことを、とりまとめて定期的にお送りするためこのような刊行物を皆様にご提供させていただくことにいたしました。

当社中の初茶会では、普段お稽古日が違いなかなかお会いできない生徒さん同士も和やかに進めることができました。

来年度は静岡支部月釜（吐月峰）も当社中での受け持ちもあります。片山タイムズで社中のつながりをより深めたいと考えております。ホームページの充実も図ってまいります。

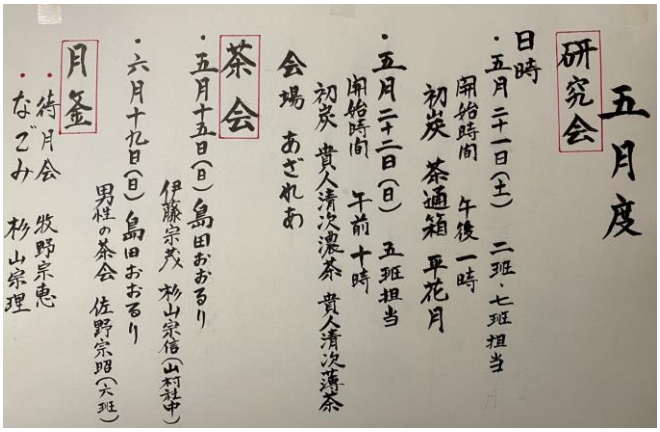
掲載内容につきましては、皆様からお伝えしたいとこと思うことを、ぜひお稽古にお越し頂いた時に私にお伝えいただければ幸いです。

これからも共にお稽古に励んで行きましょう。

片山宗充

支部連絡

5月22日の研究会では、貴人清次薄茶で、当社中より石田さんが清次、増田さんがお点前として出られます。



五月度

研究会

・日時
五月二十一日(土)　二班、七班担当
開始時間　午後一時
初炭　茶通箱　平花月

・五月二十二日(日)　五班担当
開始時間　午前十時
初炭　貴人清次濃茶　貴人清次薄茶
会場　あざれあ

茶会

・五月十五日(日)　島田おおるり
伊藤宗哉　杉山宗信(山村社中)

・六月十九日(日)　島田おおるり
男性の茶会　佐野宗昭(大班)

月釜

・待月会　牧野宗恵
・なごみ　杉山宗理

お稽古道具紹介

三友棗（サンユウナツメ）

もととなっているのは竹の中棗で、上から見ると梅の花の形になっているのがお稽古で使うとよくわかるかと思います。外は溜塗で、松の蒔絵が描かれています。

あわせて松竹梅となりこれを、宋代（中国）文人画の画題で歳寒三友（さいかんのさんゆう）といい、そこから三友棗と名付けられました。淡々斎好です。

お稽古に使っているのは道場宗廣の作です。料理の鉄人の道場六三郎のお兄さんですね。

ある日のお稽古の茶花

ヒメヒオウギ

このお花は4月から5月にカラフルな花を咲かせる綺美香の花です葵祭期間中京都では、「ヒオウギ」が民家の床の間や玄関に飾られます。「ヒメヒオウギ」とは近い種類ではありますが属が異なります。

シャクヤク

シャクヤク（芍薬）はボタン科の多年草で、初夏に大形の紅・白色などの色合いが多いです。花は一重、八重があり、花色もさまざまで、江戸時代から茶花として用いられ様々な品種改良がおこなわれました。美人を形容し「立てば芍薬、坐れば牡丹、歩く姿は百合の花」という都々逸も有名ですね。

コバノズイナ

今回枝もので入っています。明治以降に日本に入ってきた外来種です。別名、姫リョウブともいいます。

初茶会の記録

社中の初茶会の写真を閲覧する環境が整いました。

左記QRコードより閲覧ください。

QRコードは社中内のみ公開と致します

お稽古でのご質問

先日お稽古で中野さんよりこのような質問を頂きました。

Q.「なぜ炉と風炉の蓋置の節の位置が違うのでしょうか？」

A. 様々な説があります。

文献からの回答となると、『茶道筌蹄』（さどうせんてい）にこう書かれています。

「竹青白　紹鷗始なり、節合を切、一寸三分なり。元水屋の具なりしを、利休一寸八分に改め、中節（なかぶし）と上節（うわぶし）とを製して、道安と少庵両人へ贈らる。上に節あるを少庵に送り、中に節あるを道安取られしなり、是よりして席に用ひ来る。炉には中節、風炉には上節と定む。」

千利休の息子道安に中節をあげ、上に節にあるものを少庵に渡したからとのことです。

これだけだと、あまりピンとこないのと、『茶道筌蹄』は稲垣休叟（表千家八代啐啄斎の弟子）が1886年に書いたということで、書かれるまでにちょっと間が空きすぎというところもあります。

実用面で考えると、風炉の時期は、柄杓から落ちた水滴もすぐに乾くので上節で浅いものを用い、炉の時期はその逆で深いものを用いる、と考えます。

もちろん大きさも違いますので、そちらもお稽古でよく見てくださいね。

片山社中 all rights reserved.